京都府内の取組み

京都府における下水道の取組みと今後の展望

京都府 建設交通部 下水道政策課長　長谷川　史明

1 はじめに

京都府（以下、本府）では、府民の安全で快適な暮らしを支えるとともに、由良川、淀川水系および宮津湾などの豊かな水環境を次世代へ引き継ぐため、下水道事業を推進しています。

一方で、施設の老朽化、頻発化・激甚化する自然災害への対応など、下水道事業を取り巻く環境は大きく変化しています。このような状況のなか、本府では広域化・共同化や官民連携の推進をはじめ、持続可能な下水道事業の実現に向けた取組みを進めています。

2 流域下水道（４流域）の紹介

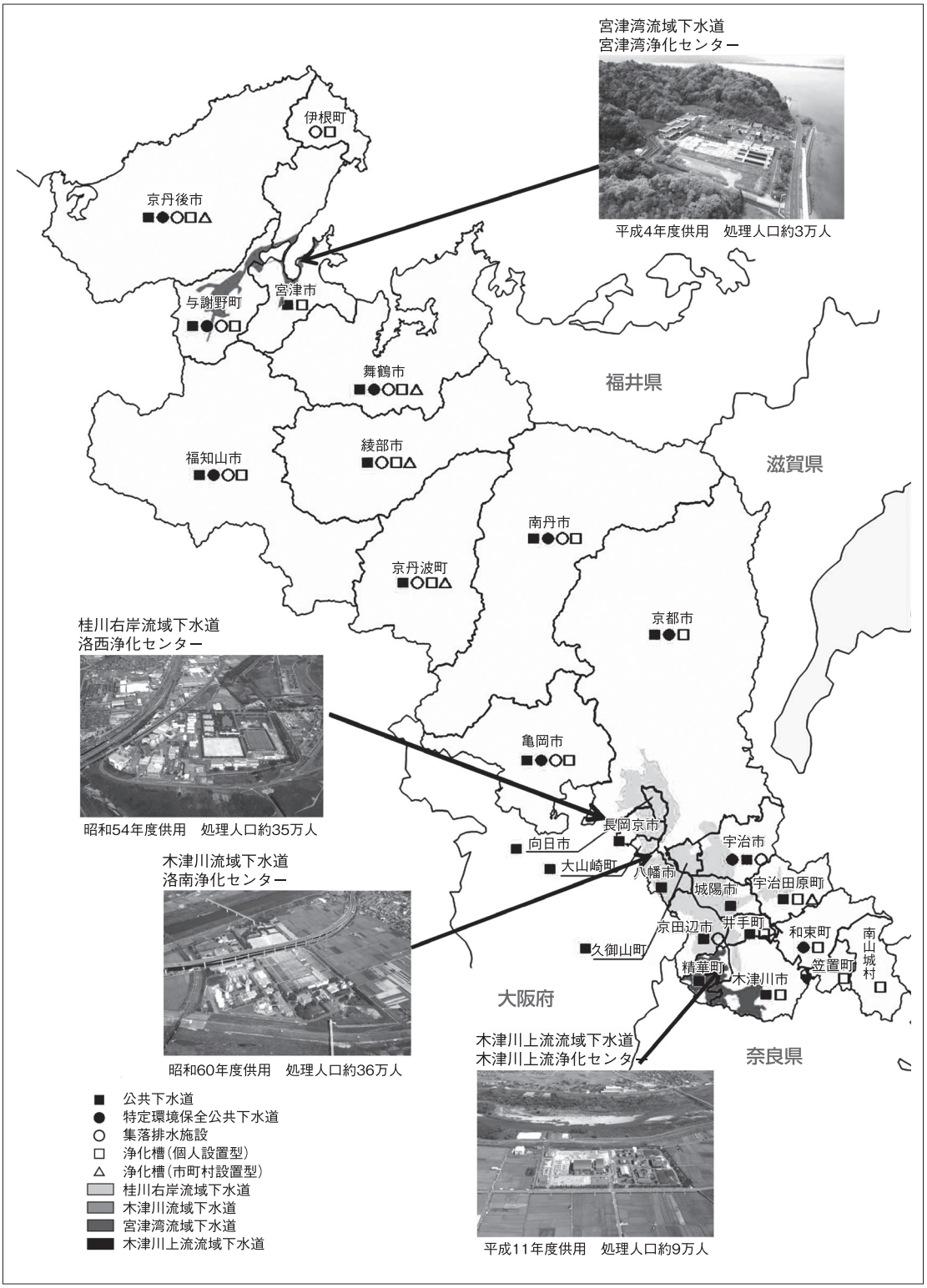
本府が事業主体となる流域下水道事業は、桂川右岸流域、木津川流域、宮津湾流域および木津川上流流域の４流域で実施しており、府内人口の約３割を対象に広域的な下水道サービスを提供しています。各流域において地域特性に応じた事業を展開するとともに、市町と連携しながら流域全体の水環境保全と下水道機能の確保に取り組んでいます（図－１）。

桂川右岸流域下水道は３市１町を対象としており、都市化が進展した地域において、水環境保全と浸水対策の両面を担っています。また、洛西浄化センターでは、汚泥の有効利用を目的として下水汚泥固形燃料化事業を実施しています。

雨水対策事業としては、増水した雨水排水路の水を地下トンネル内へ取り込み貯留しながら、同時に桂川へ放流する施設である「いろは呑龍トンネル」を流域関連３市と連携し整備を進めています。

木津川流域下水道は６市３町を対象としており、京都府南部の都市圏や関西文化学術研究都市の発展を支える重要な流域です。近年は新名神高速道路の整備に伴い城陽市東部丘陵地の大規模なまちづくりが進められ、また、令和７年度には東部丘陵地に隣接する宇治田原町公共下水道の流域編入を行い、令和８年度から「木津川東部幹線整備事業」に着手しました。これら将来的な流入水量の増加を見据えた施設整備や改築更新に取り組んでいます。

宮津湾流域下水道は１市１町を対象としており、日本三景である天橋立を擁する宮津湾の良好な水環境の保全を目的として整備された流域です。京都府北部地域の観光振興や自然環境保全を



図－1　汚水処理事業の実施状況（令和８年４月現在）